

ものがたり
物語を読もう

□年 □組 □番 名前

◇ 川島さんの学級きゅうでは、次の「ニひきの蛙かえる」という物語を読んで、思ったことを発表はつぷようしあうことになりました。これを読んで、あとの問いに答えとましょう。

緑みどりの蛙と黄色の蛙が、はたけのまんなかでばったりゆきあいました。

「やあ、きみは黄色だね。きたない色だ。」
と緑の蛙がいました。

「きみは緑だね。きみはじぶんを美うつくしいと思っているのかね。」

と黄色の蛙がいました。

こんなふうに話しあっていると、よいことは起おこりません。
ニひきの蛙はとうとうけんかをはじめました。

緑の蛙は黄色の蛙の上にとびかかっていきました。この蛙はとびかかるのがとくいでありました。

黄色の蛙はあ※とあしで砂すなをけとばしましたので、あいてはたびたび目玉から砂をはらわねばなりませんでした。

するとそのとき、寒さむい風がふいてきました。

ニひきの蛙は、もうすぐ冬のやってくることをおもいだしました。蛙たちは土の中にもぐって寒い冬をこさねばならないのです。

「春になったら、このけんかの勝負しょうぶをつける。」

といって、緑の蛙は土にもぐりました。

「いまいったことをわすれるな。」

といって、黄色の蛙ももぐりこみました。

寒い冬がやってきました。蛙たちのもぐっている土の上に、びゅうびゅうと北風がふいたり、霜柱しもばしらが立ったりしました。そしてそれから、春がめぐってきました。

土の中にねむっていた蛙たちは、せなかの上の土があたたかくなってきたのでわかりました。

さいしよに、緑の蛙が目をさしました。土の上に出てみました。まだほかの蛙は出ていません。

「おいおい、おきたまえ。もう春だぞ。」

と土の中におかかってよびました。

すると、黄色の蛙が、

「やれやれ、春になったか。」

といって、土から出てきました。

するとそのとき、寒い風がふいてきました。

「去年きょねんのけんか、わすれたか。」

と緑の蛙がいました。

「待まて待まて。からだの土をあらいおとしてからにしようぜ。」

と黄色の蛙がいました。

二ひきの蛙は、からだから泥土どろつちをおとすために、池のほうにいきました。

池には新しくわきでて、ラムネのようにすがすがしい水がいっぱいにたたえられてありました。そのなかへ蛙たちは、とぶんとぶんとびこみました。

からだをあらってから緑の蛙が目をぱちくりさせて、

「やあ、きみの黄色は美しい。」

といました。

「そういえば、きみの緑だってすばらしいよ。」

と黄色の蛙がいました。

そこで二ひきの蛙は、

「もうけんかはよそう。」

といいあいました。

よくねむったあとでは、人間でも蛙でも、きげんがよくなる
ものであります。
(新美南吉「二ひきの蛙」による)

※あとあし…うしろあし

一、なぜ蛙たちは春がきたとわかったのでしょうか。

(

)

二、「もう春だぞ。」と言った蛙はどちらでしょう。

(

)の蛙

三、鈴木さんは、この物語をしようかいつにすることにしました。

□にあてはまる言葉を本文から選んで書きなさい。

わたしは、この二ひきのかえるのやりとりがおもしろいと感じ
ました。ア のがとく意な緑のかえる。それに

対して黄色のかえるイ で ウ をけとばし

ます。二ひきのかえるの様子が目にうかびます。

また、「とぶんとぶんとびこみました」という音がおもしろい表現だと思
います。体があまり大きくない感じが出てい
ます。

終わり方も「エ がよくなるものです。」と、

話を短くまとめているところが気に入っています。

